

「協和小学校の中俣（下）川踊り伝承活動の取組」

1 学校名

垂水市立協和小学校

2 学年・人数

3年生 6人 4年生 6人 5年生 7人 6年生 8人 (計27人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年7月～9月 総合的な学習の時間 (本校体育館)

令和3年9月22日 (水) 運動会発表リハーサル (本校校庭)

令和3年10月～11月 総合的な学習の時間 (本校体育館)

令和3年11月11日 (木) 学習発表会リハーサル (本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

令和3年 9月26日 (日) 秋季大運動会

令和3年11月13日 (土) 学習発表会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について

(1) 名称

中俣（下）川踊り (なかまたしもかわおどり)

(2) 由来

川踊りは、川内おどり、水神おどりともいわれ、水神を祭り、雨乞い豊作を祈って奉納されてきた踊りです。川踊り保存会の記録によると、上川踊りは今から百五・六十年前に坪内作馬という人が、下川踊りは四百年位前に中俣の殿様が、それぞれ共に伊集院から伝えてきて踊るようになったとされています。川踊りは戦後途絶えていましたが、昭和45年に保存会がつくられ復活しました。踊り手不足などで途中途絶えることもありましたが、今宮神社の六月灯や校区の敬老会など、いろいろなイベントに出演して、踊りを披露しています。(鹿児島県ホームページより抜粋)

(3) 構成等

「中俣川踊り」には中俣上川踊り、中俣下川踊りの2つがあり、演自やテンポが異なります。踊りは「鐘」「太鼓」「鼓」「三味線」といった楽器により演じられます。(鹿児島県ホームページより抜粋)

5 保存会や地域との連携の具体

中俣（下）川踊り保存会で計画されている毎月の定例会(練習会第1土曜日)に校長や教頭(保存会へ加入)、職員が参加し、川踊りの練習をしたり、学校での練習計画の打合せをしたりして、連携を取ってきました。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

毎月の定例会での情報交換や若宮神社での行事への参加を通して、郷土芸能のよさや保存会の方々の想いを知ることができ、そのことを児童へより具体的に伝えることができ、児童の練習やリハーサルでの打合せ等も大変細やかに実施することができました。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見（協和小ホームページより）

南日本新聞 令和3年11月20日掲載（取材日11月13日）

学習発表会で 郷土芸能披露
垂水・協和小

垂水市の協和小学校で13日、学習発表会があり、3年生以上の27人が地域に伝わる郷土芸能「中俣下川踊り」を披露した。保護者や

令和3年度 学習発表会
中俣（下）川踊り 3～6年生
令和3年11月13日（土）
2・3校時 全校実施
取材 南日本新聞鹿屋総局

地域住民に見守られた。保存会と県によるが、練習の成果を發揮して軽やかに踊ると、水神に雨乞いと豊作を祈って奉納されてきた踊り。400年ほど前に伊集院（日置市）から伝わったといわれている。同校児童は継承活動の一環として運動会や敬老会に向けても練習し、伝統を守っている。

6年の岩切隆史朗君は「大きな動きを意識し、心を込めて踊ることができた」とにっこり。保存会副会長の才原ちか子さん（62）も「中俣は「大人になった時『自分も踊れる』」と思っていってほしい」と期待を込めた。（中俣貴絵）

中俣下川踊りを披露する児童＝垂水市の協和小学校

学習発表会を終えて
6年児童
「大きな動きを意識し、心を込めて踊ることができた。」
保存会
「大人になった時、『自分も踊れる』と思ひだし、引き継いでいってもらえらうれしい」
教頭
「保存会の皆様のおかげで子どもたちは、楽しく練習に取り組むことができました。コロナ感染拡大の影響で地域の方々へお見せすることができず残念でしたが、運動会や学習発表会での堂々とした子どもたちの発表に保護者の方々も大きな拍手を送り、大変喜んでおられました。」
校長
「川踊りを通して児童と保存会の方々の心温まる交流ができたことがとてもうれしかったです。今後とも伝統継承活動に力を入れて、地域と共に発展する学校でありたいです。」

川踊り紹介QRコード↓

